



先輩からのメッセージ

MESSAGE 01

三原市立第四中学校

さいもと まり
齊本 麻里 教諭

- Q 非常勤講師としての8年間について？
- A 大変なことはあったが、先輩教員の授業を見させていただく中で、とてもやりがいのある仕事だと感じて8年間毎年教員採用試験を受け続けた。
- Q 模範になったのはどんな先生？
- A 先生によっていろいろな授業のやり方があり、生徒を引き付ける方法などを目の当たりにして、授業の奥の深さを感じ、それがやりがいにつながった。
- Q 非常勤講師のときと正式に採用されてからを比べて一番違いを感じたのは？
- A 一番は学校の行事に参加でき、いろいろな生徒と接することができること。授業での生徒への向き合い方は変わらないが、授業以外での自分の役割が増えて、自分の力を発揮できる場所が増えた。
- Q これはうれしかったなとか、先生やってよかったなと思うときは？
- A 卒業生が学校に来てくれて、「英語を今こういうとこ頑張ってるよ。」と言ってくれたときなどは、うれしかった。

- Q 大変だなと思うこととやってよかったと思うことの比率は？
- A やってよかったという方が大きい。特に3年生は今入試で、目の前で成績が上がっていくのを見られたり、分かったと言ってくれたり、手応えを感じられ、やりがいにつながり、やってよかったと思う。



MESSAGE 02

県立広島中央特別支援学校
(中学部)

やなぎだ ともこ
柳田 智子 教諭

- Q 教員を一度退職されて、もう戻らないと決めていた教員に戻ったきっかけは？
- A 出産を3回経験し、3人目の子供が障害のある子供だった。その子とどのように向き合っていこうかと考える中で、インクルーシブ教育の勉強会で学び始め、障害のある子供たちに関わりたいという気持ちが芽生えてきた。初めはお手伝いや支援ができる指導員から始めた。子供を保育園に預けてからは、がっつりと向き合っていきたいと思い、もう一度教員になろうと決意した。
- Q 県外から広島県に来て教員として働くことに対する違和感等は？
- A 一切なかった。やはり特別支援学校で働きたいという気持ちが大きかった。広島はとてもいい町で、教育においても先生方も一生懸命で、子供たちものびのび育つ環境であり、広島に来てよかった。
- Q 音楽を通して日々子供たちに教えていることは？
- A 一番苦しいときに、しっかりと自分の気持ちと向き合えるアイテムとして音楽をもって進んでほしいと願っている。

- Q 保護者との接し方について心掛けていることは？
- A どのような理解者や支援者が周りにいるかで大きく変わってくる。前向きに歩いていってほしいと願っている。



MESSAGE 03

呉市立天応小学校

やました りょうすけ
山下 涼介 教諭

もりしげ あきこ
森重 章子 教諭 (先輩教員)

- Q (森重先生へ) 新任の先生へのサポートはどんなもの？
- A 校内指導教員や何校か学校を周って指導する拠点校指導教員が配置されていて、手厚く初任者を指導するシステムが確立されている。
- Q (山下先生へ) どういったサポートを受けた？
- A まずは実際にいろんな先生の授業を見させていただくことからスタートした。先生によってそれぞれ授業の方法は違って、いろんな授業の技術を学ばせていただいた。
- Q (森重先生へ) 新任の先生を指導するカリキュラムは？
- A 年間を通して、授業の技術力向上等、教員としてどのようなことを身に付けていけばいいかを月ごとに指導するカリキュラムが組まれている。
- Q (森重先生へ) 新任の先生にまず伝えたいことは？
- A まずはいろんな先生の授業や所作などから、授業の進め方や保護者対応を学ぶこと。最初からできると思わないこと。若いうちは失敗することは当たり前であり、見て学んで、分からないことはとにかく聞くこと。
- Q (山下先生へ) 今一番悩んでいることは？
- A 今は子供たちとの距離のとり方が難しいと感じている。
- Q (森重先生へ) 経験の中から子供との距離感って分かってくるもの？
- A 子供って毎年違う。去年うまくいったからといって今年うまくいくとは限らない。そこはベテラン教員でも

みんな一緒。ベテラン教員も毎年勉強、経験を積んで学ぶことがたくさんあって、新任の先生よりは引き出しがちょっと多い。だから、新任の先生は、しっかり見て聞いて学んで引き出しを増やしていくことが大事。

- Q (山下先生へ) ズバリ、教員になって良かった？
- A はい！子供たちが初めてできるようになったことを笑顔で喋ってくれたり、ありがとうと言ってもらったり、こういう言葉をかけてもらった時、教員になってよかったと思ひ、また頑張れる。



— 教育委員会からのメッセージ —

大人になって夢を実現した時、学校生活を振り返って「ふるさと広島県のあの市や町の、あの学校で、大好きなあの先生と、かけがえのないあの友達たちと、ともに学んだからこそ今の自分がある」広島県で学ぶ全ての子供が心からそう思える「日本一の教育県」を目指して「学びの変革」を進めています。「学びの変革」では、全ての子供が学校や地域を舞台に、自分の個性を生かしながら、学びの主人公になってワクワク学べる学習に取り組んでいます。このような「学びの変革」のためには、学校も、常に新たな情報を手に入れ、変わり続けながら前に進むことが必要です。

広島県の学校は、新たな発想、新たな力を求めています。みなさんを支えるスタッフも待っています。安心して教職の道を選んでください。



【みなさんが広島県に来るのを楽しみにしている県内の指導主事】